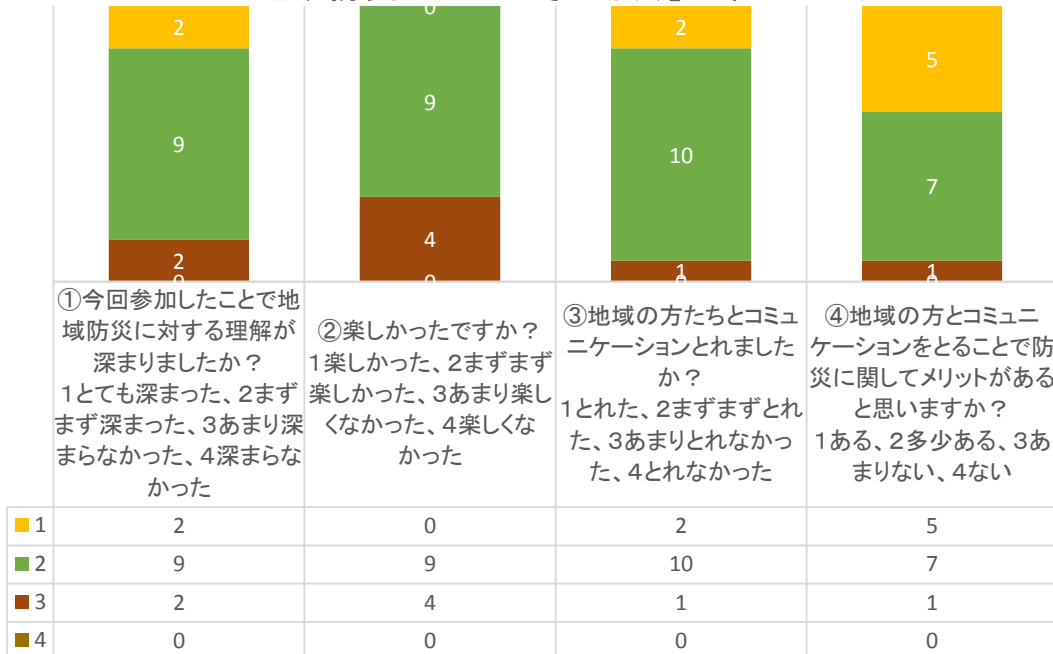


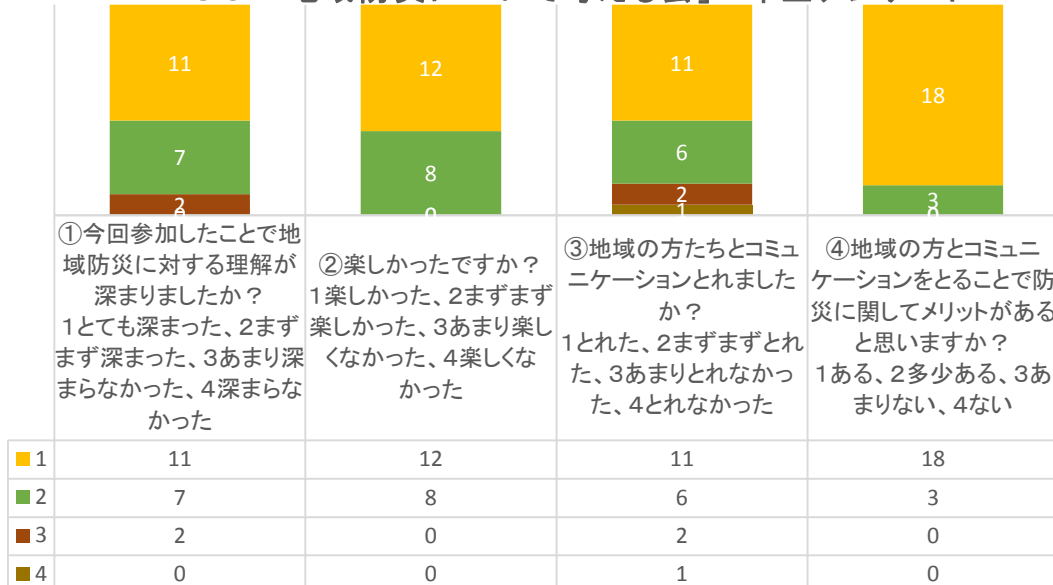
ぎふグローバル ニュース「Co-Work」 49 号 H28/9/16

9 月 3 日（土）岐阜県防災・減災センターの防災士（NPO 日本防災士機構認定）、防災ボランティアコーディネーター 西田 重成さんに来ていただき、この学校周辺の鶴地域の住民や企業の方との「DIG (Disaster Imagination Game 災害図上訓練)」講習会を開催。以下は生徒へのアンケート結果です。

「H28.9.4 地域防災について考える会」2 年生アンケート



「H28.9.4 地域防災について考える会」1 年生アンケート



【①の理由】

- ・どのようにして逃げるのか、命を守るということを考えられたから
- ・地域のことを知っているからこそできた部分もあるので自分も地域のことを知ろうと思った

- ・看護関係の人と自治会長さんが同じグループだったので町のことがよく知れたし、運転者から見た道路事情を聞けて良かった
- ・自分たちだけでやった時より道路情報などが詳しくわかったから
- ・地元の人だからこそ知っていることが知れ地域防災の意識を高めることが出来た
- ・地域の方たちと防災について考えられたから
- ・この活動後、登下校の際に防災という視点をもって街を見つめなおすようところがけるようになった。
- ・洪水という言葉の意義も知り新しい発見におもしろさを感じた
- ・私たちが知らない細い道や危険な場所を地域の方は知っていて、より安全なところはどこかということとを深く考えられた
- ・地域は地域の人たちで守っていかなければならないと思ったから
- ・高校生の立場としてやれることと、地域の人々の立場からやってほしい事と二つのことを考えながらやっていた。学校周辺の防災施設などどこにあるのかということもわかってよかった
- ・この様な機会がないとなかなか考えないので理解が深まった気がした
- ・DIG を初めてやって避難の仕方を色々考えさせられた

【②の理由】

- ・色々な意見が出て自分と違う考え方を知ることが出来たから
- ・災害について活発に討論できた
- ・自分の意見を結構言えたから
- ・普段話さない先輩や地域の方々と交流できたから
- ・仲間や地域の人と協力してうまく逃げる道を作ることができたから
- ・大人の人とやると色々な意見が出てきたから
- ・地域の人と関わることができて地図には載ってなかった細かい場所などが知れたから
- ・DIG だけでなく貴重な土嚢作り体験もできたのでよかった
- ・あまり高校生以外の年代と話をする機会がないので色々な世代の色々な考え方が知れてうれしかった
- ・地域の人たちとも協力してやることで幅広く意見を交流できた。ゲーム感覚で気軽にできたのもよかった
- ・自分と地域の方は違った視点で考えていて意見交流の時にそれが知れたこと。自分の気づかないところ気づかなかったところを知れて楽しかった
- ・鷗小の教頭先生が気軽に色々話してくれたから
- ・話したことがなかった1年生と話す機会を持てたし楽しく学べたからよかった
- ・地域の人が丁寧に教えてくれたから

【④の理由】

- ・普段から互いにコミュニケーションをとっていればいざとなった時効率よく動けると思う
- ・どこに何があってどう使うかなど普段知ることが出来ないことが知れた
- ・防災は地域とのつながりが重要だと思うから
- ・幅広い年代で交流した方が互いによく知れすばやい判断ができる
- ・同じ地域でも知っていたり知らないことがあるのでそこを補うことが出来ると思うから
- ・防災をする＝人との関わりを持つことだと思ったから
- ・地元の人だからこそ知ってる情報があり、それを知っておくことでメリットにつながると思ったから
- ・高校生は地域にとって大きな存在になるのでその高校生と街をよく知る地域の人が交流することはとても大切なことだと思う
- ・私達だけの力ではできないことも多いので災害が起きたときに助け合えるのは地域の人であると思う

- ・学校周辺の交番や消防署がどこにあるかなど知らないことが多かったので、地域の方とやることで知ることが出来た。また地域の方が道路状況などを知っているの、ここは通らないなどという意見があつてとても参考になった
- ・学校に来ているだけで周辺を知らない自分にとって多くのことを知るのはとても大切

【全体の感想や改善点など】

- ・災害時に自分は高校生として地域の役に立てる立場だと自覚できた。グループのリーダーになって全体場で話す機会もあつて良い機会となった
- ・普段あまり考えない災害について語り合うことが出来て良かった。いつも聞き手に回ってしまっていたのでこれからは積極的に話し合いに参加したい
- ・やって良かったと思う。自分は高校生できっと役に立てることが多いと思うから。もし災害が起きたらしっかりうごけるようにしたい
- ・災害が起きたときに私たちは地域の方々と協力し合つて全員が避難できるようにするべきだということが分かった。忘れないようにしていきたい
- ・仲間や地域の人たちと協力できたのは良かった。改善点はもっと自分から動くことをしていきたい
- ・DIGは楽しくかつ防災をすることの大切さを知ることができるのでとてもよいと思った
- ・地域の方々との交流がとれてとても良かった。自分たちだけで行ったときに学んだことを活かして積極的に発言できたことを今後も生かしたい
- ・他のグループの意見を聞いてから更に自分たちの意見を深めていけたらいいと思った。いくつかのグループの意見を一つにまとめ、ある種の防災マニュアルとして市役所に提供し、それを地域の人たちに配布するのもおもしろそう！鶴地区が防災に対するモデル地区にしていきたい
- ・自分の住んでいるところのハザードマップとかを見て対策を考えておきたい
- ・とても楽しかった。境川中の中学生や他の地域の学校ともやってみたい
- ・リーダーをやつてうまく役割とかを回せなかったので次回はうまくやりたい。全員の意見を聞いてまとめられるようにしたい
- ・地域の方の生の声を聴くことが出来たのが嬉しかった。今度は地域の方が驚くような活動をしたい。
- ・各地域別で同じような活動をしてみたい

総括

- ・地域の方々とのこうしたふれあいは、刺激的であつたように思われる。また、確かに、技術的なことはあるのかもしれないが、何より顔を見て話し合うことこそが、地域の防災力を高めることに直結するという、実感を持ったようである。災害時に、声をかけることへのためらいが少なくなるだけでも、災害による被害は大きく減少することになる
- ・「各地域から通っているかもしれないけれど、昼間は鶴地区の住民です」とおっしゃった自治会長堀江さんの言葉が印象的だった。高校生として何ができるか、また、地域に何ができるか、について、考えていけるいい機会になった。発展した将来像を感想に挙げた生徒も出てきており、どういう形に進展するか将来的に楽しみだ。
- ・1年生と、2年生の反省には、少し隔たりがある。確かに2年生は、DIGをすでに経験しており、やや新鮮味に欠けたところはあつたかもしれないが、今後の普及や、フィリピンでの実践を考え、地域防災についての考えを深めてほしいと思う。

活動の様子が中日新聞に掲載されました

平成28年9月15日 中日新聞朝刊14面

岐阜聖徳学園高生

水害時の避難 住民と考える

岐阜市の岐阜聖徳学園高の生徒が、学校近くの住民らと協力して災害発生時の避難方法や避難所運営について、課題を検討する取り組みを進めている。本年度末にはフィリピン・レイテ島を訪れ、その成果を現地の高校生に英語で伝える。

(北村剛史)



避難所運営についての検討に向け準備を進める生徒たち＝いずれも岐阜聖徳学園高で



学校周辺の住民らと避難ルートなどを検討する生徒（岐阜聖徳学園高提供）

県の「ぎふグローバル人材育成推進モデル事業」の一環。同校の普通科特進クラスの生徒が三年前から、総合学習の時間などを使い取り組んできた。初年度は、まず自分たちが暮らす地域について学んだ。

その中で、長良川がこの地域に豊かな恵みをもたらしている一方、過去に水害によって大きな被害を与えていることを知り、テーマを「防災」に決定。英語が使え、水害で何度も被害を受けているレイテ島の国立レイテ高校と連携することにした。双方の生徒は、これまでに二度ずつ互いの国を訪問している。

昨年度は、聖徳学園の生徒が専門家から、避難所運営や災害発生時の避難のシミュレーションの方法を学習。レイテ高校の生徒に、そのやり方を伝えたほか、防災上の注意点などを織り込んだ「防災かるた」を英訳し、遊び方を含めて教えた。

来年、比で成果を英語発表

本年度は特進クラス一、二年生計五十八人が、学校のあちこちの住民と協力して防災について考えることにした。今月三日には、生徒や地元の水防団員、地区内の企業関係者ら計九十人が参加し、災害発生時の避難ルートや、高齢者ら要支援者への対応を考えた。

二年の宮代侑歩さん（ひさは）は「地図上では使えそうと考えていた道が、地元の人に聞いてみると水田の近くで避難には適していないことが分かった」と振り返る。十月十五日には、同様に避難所運営について検討する。

来年二月か三月にはレイテ島を訪れ、一年間の成果を現地の高校生に伝える。二年の川口太一さん（ちほ）は「日本語でも伝えるのが難しい内容を英語でうまく伝えられるかが課題。それでも、地域の人たちと協力して災害に備える大切さを伝えたい」と話している。